

大学

創造表現学部 創造表現学科
建築・インテリアデザイン専攻

空間設計Ⅳ

清水裕一教授

社会問題にも目を向けながら
学生が自ら考え、建築の設計に挑む。

3年次後期に開講される「空間設計Ⅳ」では、規模が大きく、複合的な役割を担う公共施設を、個人もしくは少数グループで設計します。2019年度の第一課題は「自分の通った小学校の現代化」、第二課題は「都心の文化交流施設」。敷地の現状や周辺環境、その敷地を含むエリアが抱える社会問題などを調査した上で、地域の課題解決や魅力向上につながる施設を考案します。図面や模型を制作し、教員や受講生が一堂に会する講評会で設計の意図をプレゼンテーション。指導教員の清水先生は「建築やインテリアは、社会や暮らしのあらゆる問題を解決するための一手段です。学生たちには設計を通して、よりよい解決策を自分で考え、形にし、発信していく力を培ってほしい」と語り、学生が「自ら考える」授業づくりを大切にしています。



愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

大学

グローバル・コミュニケーション学部
グローバル・コミュニケーション学科

Advanced Pronunciation Training

中郷慶教授

状況や感情が伝わる英語発音の力を、
理論と実践で磨き上げる。

日本語を母語とする学生の多くが不得意だと感じている英語発音。その向上は、単に音声教材に合わせて練習するだけでは達成しにくいいため、英語音声学の視点から学修・考察した上でトレーニングすることが重要です。そこでこの授業では、調音音声学や英語イントネーション論などの「理論」を学ぶとともに、実際に声に出す「実践」を徹底して行います。2019年度は『ハリー・ポッター』シリーズや『オズの魔法使』を活用し、映画の原作や映画の台詞を朗読。学生はストーリーや登場人物の心の動きなどを考慮しながら、「その場の状況・感情」が伝わる英語発音を練習します。授業を担当する中郷先生は「英語発音の上達は、英語コミュニケーションを専門的に学ぶための土台です。英語を話すときの積極性や自信、新たな挑戦への一歩につながるでしょう」と語り、学生たちの成長に期待を寄せています。

